

自由と健康と安全への指切りゲンマン ＜規範意識の醸成に向けて①＞

昨今の世の中全体の規範意識の希薄さについて、たいへん危機感を抱いております。社会全体がやさしくないものになってきているのではなかろうかと。それは世間一般だけに限らず、学校社会も然りです。当校のみならず、それは全体的な傾向だと考えます。そう感じているのは、私だけでしょうか。

一人一人の人間がすべて聖人君主ならば、いろいろな法律やきまりもなくとも世の中は動くのかもしれないかもしれません。学校も、細かいルールや決まり事がないにこしたことはありません。また、だれが考えてもブラックだと思う校則は当然見直す必要があると思っています。

そもそも、私は、管理的な組織や雰囲気が好きではありませんし、きまりきまりでガチガチに子どもを締め付けるのも全く望んでおりません。

一方で、集団生活（新津第二中学校は、全校600人超の市内6番目の大規模校）を送る上で、最低限の約束事がなければ、子どものみならず教職員の安全安心の確保や居心地のよい環境づくりができないことは目に見えています。

だからと言って、子どもたちは、まだまだ物事の分別がつかない成長過程の部分も大きく、その自主性や考え方を最大限認めながらも、子どもたちが求める要望や考えを無条件に受け入れるわけにはいかない部分があるのも事実です。そして、決まり事をなあなあにし、課題をあいまいにしながら学校経営した場合、私が懸念していることは次のことです。

◇ 我々教員の、生徒指導に関する実際の生徒への指導場面で、教職員サイドの指導の一貫性を欠いたり大きな温度差があると、生徒や保護者に、不平等感や学校・教職員への不信感を抱かせることになる。また、我々教職員相互の信頼関係も損なわれる。

（例えば、A先生は厳しい指導だったが、B先生からは何も指導されなかった。自分はしっかり生徒に指導しているけど、他の先生は・・・）

◇ 学校生活で当たり前前のことを当たり前前に行っている生徒や教職員が、バカをみるような組織になる。

そうならないために、今後、生徒間、生徒と教職員、教職員間、の『約束事』を、一つ一つ丁寧にリセットして整理しようと考えています。

あえて『約束事』と表現させてもらいました。「校則」とか「きまり」という言葉はあまり好きではありません。やや上から目線的な表現のようで。

あえて『約束事』とするのは、みんなが居心地のよい学校生活を送る上での関係する人間同士の『契約』だという考えです。

その『約束事』を設定する上で優先・重視する視点は、次の3点です。

◇ **健康安全面への配慮**

◇ **集団生活上必要とする生徒指導面の重要性**

◇ **社会通念上の常識**

そして、子どもたちに明確に説明できないこと、先生方の一人でも納得いかないことは『約束事』としない、ということです。

本日6月5日(月)の全校朝会で、生徒指導主事が、『約束事』の第一弾として「体操着の着こなし(半袖シャツの裾出し)」について話をしました。

【原則】

(半袖シャツの裾を体育着下に入れることが望ましいが)
特に暑さ(熱中症)対策として、生徒自身の判断で
半袖シャツの裾を出しても構わない。

【約束事】

◇半袖シャツの裾を出しているということは暑いと感じているわけなので特に先生方が注意を促すことはしない。しかし、

- ・半袖シャツの裾を出すならば、長袖の上着を脱ぐ
- ・長袖の上着を着用する必要があるならば、半袖シャツは出さない

◇安全面、生徒指導上必要な活動場面等では、シャツは出さない。

- ・運動競技や活動の場面で、危険であると予想される。
- ・裾がはだけて、下着や肌着などがあらわになることが懸念される。
- ・TPOをわきまえて、シャツを出さないことが当然の場面である。

「だらしない」とか「暑い」とかいうのは、個人差のある概念です。「指導しても指導に従わないから指導しない」は教師側の責任放棄です。

私は、先日のいじめ見逃し0スクール集会時の講話の最後に、このようなことを話しました。

人間にとって「自由」はかけがえのないものだ。でも、「自由」と「自分勝手・わがまま」を混同してはならない。

例えば、みんなで北海道に旅行に行こうとする。歩いて行こうが自転車やバイクや車で行くのは自由。車で高速道路を使おうが、途中の観光地に寄ってのんびり行くのも自由。フェリーで行こうが飛行機を使おうが自由。

でも、車で行くのに、一刻も早く到着したいからと、猛スピードを出したり信号を無視する。これを自由とは呼ばない。海や空が多少荒れてても、絶対に行きたいから、船や飛行機を出せとごねるのは、自由にはほど遠い。

私なら北海道にはみんなとは行きません。一人旅が大好きです。それは、わがままではないと思うのですが・・・・。